

St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学1995年度改訂カリキュラムについて

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菱沼, 典子, 小山, 真理子, 小島, 操子, 常葉, 恵子, 香春, 知永, 宮坂, 義彦, 助川, 尚子, 木村, 登紀子, 伊藤, 和弘, 菊田, 文夫, 岩井, 郁子, 小松, 浩子, 堀内, 成子, 及川, 郁子, 中山, 洋子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/311

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



聖路加看護大学1995年度改訂カリキュラムについて

菱沼 典子, 小山真理子, 小島 操子, 常葉 恵子, 香春 知永,
宮坂 義彦, 助川 尚子, 木村登紀子, 伊藤 和弘, 菊田 文夫,
岩井 郁子, 小松 浩子, 堀内 成子, 及川 郁子, 中山 洋子,
飯田澄美子, 荒井 蝶子*, 羽山由美子, 太田喜久子, 野地 有子
(1993, 1994, 1995年度カリキュラム委員会)

I. はじめに

看護教育の大学化と大学教育の大綱化が重なって、我が国の大学における看護教育カリキュラムの開発には、目覚ましいものがある。本学でも長年にわたりカリキュラムについて検討してきた結果、改定案がまとまり、1995年度より改訂カリキュラムによる教育を開始したので、その経緯と改訂カリキュラムの内容を報告する。

大学教育における従来の看護学のカリキュラムが、非常に過密であったこと、学生の学習に対する準備状態(レディネス)が変化してきたこと、看護の対象である人間の成長発達レベルを主軸にしたカリキュラムに疑問があったこと、教授方法が適切であるかどうか疑問があったことが、本学におけるカリキュラム改訂の原動力であった¹⁾。

今回の改訂に当たっては、大学の理念および卒業生の特性(教育の目標)に添ったカリキュラムであること、現在の看護学の内容を、初学者に最もわかりやすく伝えられること、看護婦と保健婦の国家試験受験資格を全員が取れること、さらに選択として助産婦の国家試験受験資格が取れるコースを置くこと、が前提であった。

本論で用いる「カリキュラム」という用語は、正規の授業として組まれる科目名およびその内容と科目配置をさしている。

II. カリキュラム改訂に向けての検討の経過

本学におけるカリキュラムについての検討は、1970年代より始まり、1988(昭和63)年にはカリキュラム検討会が設置され、47回の検討会、2回のワークショップ、研修会1回を経て、1990(平成2)年3月に検討会の報告が出された¹⁾。これを受けて、カリキュラム

委員会で実施に向けて討議がなされた。しかし、本学の理念やどうい卒業生を送り出したいのか(卒業生の特性)、またカリキュラムを構成していく上での主要概念に関して、前述の検討会では文章化がなされていなかったため、その検討とカリキュラム案の見直しのために、1992年1月に、新たにカリキュラム小委員会が設置された。

カリキュラム小委員会は、常葉恵子学部長(当時)、小島操子、小山真理子、菱沼典子、香春知永の5名の委員で構成された。大学の理念、卒業生の特性、カリキュラムの主要概念、カリキュラムの構成について、1994年4月まで計22回の会議を持ち、本大学の理念、卒業生の特性、カリキュラムの主要概念の案を作成、カリキュラム委員会へ提案した。カリキュラム小委員会では、カリキュラム開発の方法論として、Torresらのカリキュラム作成の方法論を用いた。

この間、1993年秋からは、全教員に対して途中経過の報告を行い、意見交換の場を設け、カリキュラムの作成に全員が参画する体制を準備した。

1994年度のカリキュラム委員会は、カリキュラム小委員会からの案を基に、大学の理念、卒業生の特性、カリキュラムの主要概念、科目構成(科目名および内容)、科目の配置、担当教員を決定していった²⁾。全教員による拡大カリキュラム委員会や、科目の構成を検討するための分科会を設け、全学を挙げてカリキュラムの改訂に取り組んだ。改訂案の決定に至るまで、拡大カリキュラム委員会を含め、1994年度は37回のカリキュラム委員会を開催した。

カリキュラム改訂案は教授会に提案され審議の上、理事会を経て、決定された。

III. 改訂カリキュラムの概要

本学は、「大学の理念」(表1)の中で述べているように、豊かな教養と感性を備えた人間形成の追求と、看護専門職者としての成長の2つを目的としている。ど

* 国際医療福祉大学保健学部看護学科(学科長)

表1 本学の理念

聖路加看護大学はキリスト教精神に基づき、看護を志す人々が、より豊かな知性と感性を備えた人間形成を追求し、専門職業人として成長することを目的としている。

本学の教育は、学生が、各個人に賦与された資質を心身両面にわたって調和よく発展させ、知的能力と判断力を高めるとともに、道徳的・倫理的価値観を形成するよう支援する。自他を問わず人間を愛し、相互に理解し合い、人種・信条を問わず人間社会の種々の領域に積極的に参加し、看護を通して公共の福祉を推進する人材となるよう支援する。

また本学は、社会の要請に応じて、教育と研究を通して看護学の発展のために努力を続け、その成果を看護教育と看護実践に役立てることによって、広く社会に寄与することをめざしている。

本学では看護を、人間の健康に焦点を当て、人間と環境に働きかけ、各人の到達しうる身体的側面と心理・社会・霊的側面の最高位、すなわち最適健康状態を生み出すように援助する働きととらえる。看護専門職者が、看護を必要とする人々との援助関係を基盤に、看護学の知識と技を用いて、個人・家族・地域社会が、それぞれの可能性を最大限に発揮できるように援助することを願っている。

(聖路加看護大学1995年度学生便覧 P.3より一部変更の上抜粋)

表2 看護学部卒業生の特性

本学では、学部の学生に対し、卒業時に以下の能力・態度を身につけていることを期待している。

- 1 人間愛の精神に基づき、あらゆる文化背景の人々を理解し、共感をもって接することのできる態度を持つ。
- 2 自己を見つめ、生涯にわたって自己の人間形成をはかりつつ、自律的に行動する態度を持つ。
- 3 事象への関心を深め、幅広く学問を探求し、批判的思考力を持つ。
- 4 看護を必要としている個人・家族・地域社会に対して、対象に応じて系統的に看護を実践できる基本的知識と技術および態度を持つ。
- 5 看護職の一員としてリーダーシップを発揮し、責務を遂行する能力を持つ。
- 6 日本および国際社会における看護の機能と役割を広い視野で多面的にとらえ、保健医療・福祉システムの中で責任を担う姿勢を持つ。
- 7 看護の専門職性および看護学の発展に寄与しようとする意欲を持つ。

(聖路加看護大学1995年度学生便覧P.4より抜粋)

のような教養人をめざしているのか、どのような看護職者をめざしているのかは、具体的に「卒業生の特性」(表2)で述べている。

カリキュラムは、本学がめざしている卒業生を送り出すための、具体的な教授-学習のプログラムである。カリキュラムすべてを通して、教養人としての、また看護専門職者としての成長という2つの目的が達せられるように考えたが、教科目としては、教養人をめざした教養科目と、看護専門職者をめざした基礎科目・専門科目を設けた。教養科目28単位以上、基礎科目31単位以上、専門科目69単位以上、計128単位以上を

取得することを、卒業の要件とした。

今回組み直したカリキュラムは、現在の看護学の内容を、初学者に最もわかりやすい形で伝えることを主眼とし、内容の重複を避け、また、看護婦教育と保健婦教育の枠をはずし、有機的な統合を計った。これによって、従来132単位以上としながら、実質的には139単位以上に膨らんでいた卒業に必要な単位数を、128単位に減らすことができた。

本学は看護学部1学部1学科の単科大学なので、看護学に焦点を当ててカリキュラムを組むことができる。このメリットを生かし、学習しやすいような順序

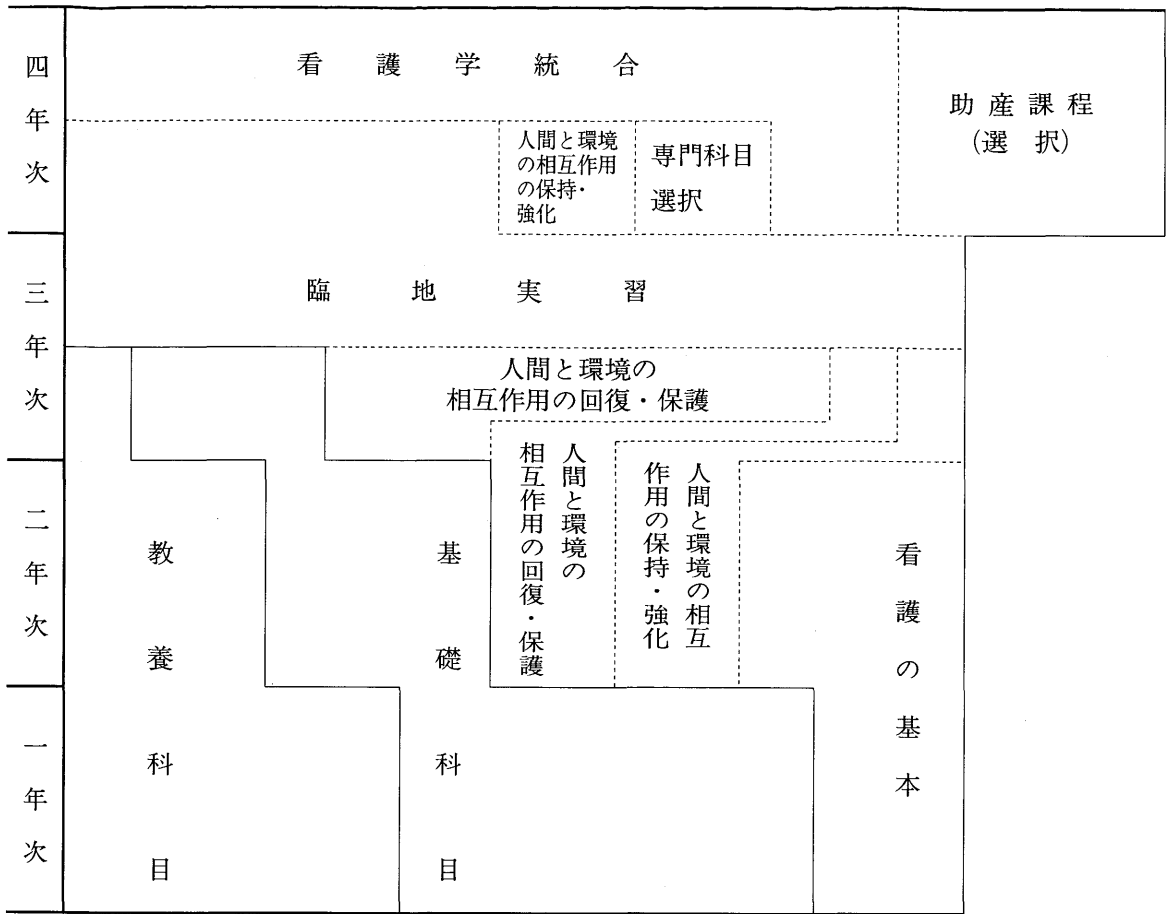


図1 カリキュラムの構造

立てを、最大限考慮することができた。1年次の看護学の単位数を従来よりも少なくしたことも、そのひとつである。もともと看護への高い志向を持った学生に、看護学の授業を提供することは必要だが、その時間が多くなると、教養科目に対して興味を持たなくなる傾向がでるといふ反省から、1年次では教養科目に力を入れられるように配置した。これは、現在4年間かかっている学士入学者への対応を含めて考えた。

保健婦助産婦看護婦学校指定規則の看護婦教育に、保健婦教育を一部統合しつつ積み上げていた従来のカリキュラムに比べ、内容の精選と一貫性を持って統合することにより、低学年から地域看護や社会制度を視野に入れられるように、科目を配置できた。

すべてが必修科目というのは、学生が自ら選択し、学ぼうという意欲をそぐ。教養科目は必修を最低限にし、選択肢を拡げることに努めた。また専門科目には以前は無かった選択科目をいれ、学生の興味に応じて学びを深めることができるように配慮した。カリキュ

ラムの構造を図1に示す。

IV. 教養科目

教養科目では、さまざまな学問分野のものの見方、考え方を学ぶことを通して、生涯にわたって自己の人間形成をはかる土台をつくることを、目的としている。同時にそれは、看護を専門的に学ぶための基礎ともなり、また、学生が将来看護職として、他の関連諸域の人々と協同して、働きまた研究的活動を行う際に、他の分野のものの見方や考え方を理解する基盤となるものである。従って、教養科目では、看護に直接関係する科目や内容に主眼をおくのではなく、多様な学問分野に触れ、その独自の課題と方法の設定の仕方や現象の捉え方を学び、背景にあるさまざまな価値観に目を向け、視点によって変化する事象の多様性に気づくことを重視している。こうした学びを通して、学生は必要に応じて、さまざまな学問領域の知見を看護に応用する能力、また、他領域の人々と対等な関係で創

表3 教養科目とその配置

授 業 科 目		Ⓐ 人文 Ⓑ 社会 Ⓒ 自然	単位数		1年		2年		3年		4年	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教 養 科 目	人 間 と 文 化	キリスト教概論	Ⓐ	2		*						
		キリスト教倫理	Ⓐ		2		*					
		音楽	Ⓐ		2	*		*				
		美術	Ⓐ		2	*		*				
		文哲学	Ⓐ		2		*		*			
		哲学	Ⓐ		2		*					
		倫理学	ⒶⒷ		2				*		*	
	宗教学	ⒶⒷ		2				*		*		
	人 間 と 社 会	歴史学	ⒶⒷ		2	*		*				
		法学	ⒶⒷ		2		*		*			
		教育学	ⒶⒷ		2	*						
		教育方法学	ⒶⒷ		2		*					
		社会学	ⒶⒷ		2	*						
		心理学	ⒶⒷ		2	*						
		応用社会学	ⒶⒷ		2				*			
	応用心理学	ⒶⒷ		2				*				
	人 間 と 言 語	女性学	ⒶⒷ		2				*			
		国語表現法	Ⓐ		2				*			
		総合英語			1	*						
		英語 I		2		*	*					
英語 II			2				*	*				
英語 III - A				1		*						
英語 III - B				1			*					
文献講読 A				1				*				
文献講読 B				1					*			
英語表現法 I - S			1		*	*						
英語表現法 I - W			1		*	*						
英語表現法 II - S			1				*	*				
英語表現法 II - W			1				*	*				
英語表現法 III - S			1				*					
英語表現法 III - W			1					*				
異文化コミュニケーション	ⒶⒷ		2					*				
ドイツ語 I			2	*	*							
ドイツ語 II			2			*	*					
中国語			2	*	*	*	*					
人 間 と 情 報	統計学	ⒷⒸ		2	*		*					
	情報科学	ⒷⒸ		2	*		*					
	統計学演習	ⒷⒸ		2						*		
	情報処理演習	ⒷⒸ		2	*	*	*	*	*		*	
自 然 環 境	生物学	Ⓒ		2		*						
	物理学	Ⓒ		2	*							
体 育	化学	Ⓒ		2		*						
	体育 I			1	●	*	*					
	体育 II			1	●	*	*	*				
総 合 科 目	総合科目 I (対人関係論)	ⒶⒷ		2	●	*						
	総合科目 II (健康科学)	Ⓒ		2		*		*			*	
	総合科目 III (生活科学論 I)	ⒷⒸ		2								
	総合科目 IV (生活科学論 II)	ⒷⒸ		2								
計				10	71							

●……選択必修

造的に協力する能力を、習得するものと考えている。

また伝統的に英語教育に力をいれてきた姿勢は変わらないが、従来に比べ選択の幅を広げたことは特色の一つである。専門分野と関連させて、海外の文献を読む力や、国際的視野にたつて、自己の考えを理路整然と表現できる、発信型の英語力を養うことが、その目ざすところである。海外での夏期語学研修で成果があった者に対して、単位を認定する。

教養科目は広い範囲の科目が含まれるので、人間と文化、人間と社会、人間と言語、人間と情報、人間と自然環境、体育、総合科目の7分野に分けて配列した。なお、保健婦助産婦看護婦学校指定規則において、教養科目を人文、社会、自然の各分野から2科目ずつ履修することが求められているので、各科目がどの分野に属するかを表3に示した。

必修科目は、「キリスト教概論」2単位、英語10単位(科目指定8単位、科目選択2単位)である。「キリスト教概論」を必修科目としたのは、本学の建学の精神を理解し、その理念をそれぞれが個性的に具現するた

めである。「英語」は前述したように、国際社会に眼を向け、国際的な情報交換ができる資質の形成をめざして必修にした。また、外国語を学びながら、異なる文化の人々のものの見方や考え方、その表現の仕方に接することによって、自国の文化を理解し直し、同時に日本のなかのサブカルチャーに目を向け、その背景の中で相手を理解する感性を育てることも目的としている。

このほか保健婦助産婦看護婦学校指定規則で指定されている、「体育Ⅰ」「体育Ⅱ」の2単位を選択必修科目とした。また、「総合科目Ⅰ(対人関係論)」2単位も、選択必修科目とした。これは、さしあたって学生各自が、学習に必要な開かれた対人関係を作ることを支援し、やがては社会に出て、より広い人間関係を築く基盤づくりを目的として設けた科目である。

卒業までに履修すべき教養科目28単位以上の中で、指定された必修単位が上記の16単位である。残りの12単位以上が学生の選択にまかせられており、保健婦助産婦看護婦学校指定規則で指定されている、教養科目数を満たすように選択すること以外は、各自の自由で

表4 カリキュラム主要概念

<p>1 人間</p> <p>1) 人間は一個の統合された存在であるが、生物・心理・社会・文化・霊的な側面を持っている。</p> <p>2) いかなる状況下においても、人間としての尊厳が保たなければならない。</p> <p>3) 人間は、程度は様々でも自己対処能力を持っている。</p> <p>4) 人間は成長・発達し、死ぬ。</p> <p>5) 人間は環境と常に相互作用しながら生活している。</p> <p>2 環境</p> <p>1) 環境とは、人間が直接・間接に相互作用するものである。</p> <p>2) 環境には、社会環境と自然環境がある。</p> <p>3) 環境は人間の健康に影響を及ぼす要因である。</p> <p>3 健康</p> <p>1) 健康とは、身体・心理・社会・霊的に良好から、良好でない状態を含む連続体である。</p> <p>2) 健康は、力動的で、流動的である。</p> <p>3) 健康は、人間と環境の相互作用の中で生み出される。</p> <p>4) 人間と環境との相互作用の結果が、その人にとって最も良好な状態を最適健康状態という。</p> <p>4 看護</p> <p>1) 看護は、人間の健康に焦点を当て、人間と環境に働きかける活動である。</p> <p>2) 看護は、個人・家族・集団・地域・国・国際社会を対象とする。</p> <p>3) 看護の目標は、対象が自己対処能力を最大限に発揮し、その対象にとっての最適健康状態を生み出すことである。</p> <p>4) 看護は、看護を必要とする対象との援助関係を基盤としている。</p> <p>5) 看護は、系統的思考に基づき、専門的知識・技術を活用して行う援助活動である。</p> <p>6) 看護は、生命の尊厳を重んじ、対象の権利を尊重する。</p>

ある。

V. 看護学カリキュラムの枠組みと内容

(1) 看護学カリキュラムの主要概念

理念の中で、看護を「人間の健康に焦点を当て、人間と環境に働きかけ、最適健康状態を生み出すように援助する働き」と説明した。これを学生に伝えていくには、中心となる概念を明らかにし、明文化する必要がある。

本学では、人間、健康、環境、看護の4つの概念について、文章化を行った。一つ一つの概念については、色々な考え方があり、特に「人間」については未だ討議が続いているが、おおよその合意が成されている(表4)。概念間の関係を、図2に示した。これらの概念と概念間の関係から、以下のような看護学のカリキュラムが導かれた。

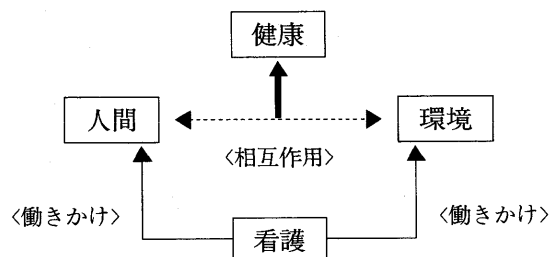


図2 概念間の関係

表5 基礎科目と配置

授 業 科 目		単位数		1年		2年		3年		4年		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基 礎 科 目	人 間 と 健 康	生涯発達論 I	2		*							
		生涯発達論 II	2			*						
		形態機能学	4		*							
		形態機能学演習	2			*						
		生 化 学	2		*							
		栄 養 学	1			*						
		家族関係論	2				*					
		集団力動論	1						*			
		ヒューマンセクシャリティ I	1							*		
		ヒューマンセクシャリティ II		1								*
	生命倫理	1							*			
	環 境 と 健 康	環境論 I	2		*							
		環境論 II	2			*						
		疾病・治療概論	2				*					
		疾病・治療各論	3					*				
		保健医療福祉政策論	1						*			
保健医療福祉行政論		3					*					
計		31	1									

人間と環境の相互作用の違いによって、様々な健康状態が生じてくる。人間と環境の相互作用と健康に関する基礎知識を、基礎科目とした。

環境との相互作用によって決まってくるその人間の健康状態を最適健康状態にもっていくように、人間と環境に対して働きかけるのが看護である。従ってどのように働きかけていくのかを学ぶことが、看護学においては、最も主要な学びになる。これを専門科目とした。健康状態によって援助方法が異なってくることに注目し、専門科目は健康状態別に組み立てた。

(2) 基礎科目 (表5)

基礎科目には、看護学の専門科目の学習に必要な知識や考え方を学ぶ科目をおいた。看護が働きかける対象を理解するのに必要な、基礎知識である。基礎科目は大きく「人間と健康」と「環境と健康」の科目群にわかれている。

「人間と健康」では、看護学において人間を分析的にみる場合の視点になる、生物としての人間、人間の心理、社会的存在である人間、人間の精神性について学ぶ。そして人間の各側面が、どのように健康と関係するのかを探究していく。ここには成長と発達の過程、からだの構造と機能、家族や小集団での人間関係、人間の性、そして生命倫理に関する科目が含まれる。

「環境と健康」は、人間が常に相互作用している環境について、特に環境が健康状態に及ぼす影響を中心に学ぶ科目群である。まず人間を取り巻く自然環境、社

表6 専門科目と配置

授 業 科 目		単位数		1年		2年		3年		4年	
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 科 目	看護の基本	生活と健康	2		*						
		看護学概論	2			*					
		看護援助論 I	3				*				
		看護援助論 II	3				*				
		看護援助論 III	3				*	*			
		看護援助論 IV	1					*			
		看護提供システム I	2		*						
		看護提供システム II		1							*
		看護技術論		1							*
	人間の 作用と 環境の 保持・ 強化	生涯発達看護論 I	2				*				
		生涯発達看護論 II	2					*			
		生涯発達看護論 III		1							*
		家族発達看護論 I	3						*		
		家族発達看護論 II		1							*
		地域看護論 I	2					*			
		地域看護論 II	3								*
	人間の 相互作用 と環境 の修正	地域看護論 III		1							*
		慢性期看護論 I	4					*			
		慢性期看護論 II	3					*			
		慢性期看護論 III		1							*
		リハビリテーション看護論 I	2						*		
	人間の 作用の 回復・ 保護	リハビリテーション看護論 II		1							*
		急性期看護論 I	3						*		
		急性期看護論 II	2						*		
		急性期看護論 III		1							*
	臨 地 実 習	ターミナルケア論	3						*		
		臨地実習 A	2							*	
		臨地実習 B	2							*	
		臨地実習 C	2							*	
		臨地実習 D	2							*	
		臨地実習 E	2							*	
		臨地実習 F	2							*	
臨地実習 G		3								*	
看護学 統合	総合実習		2●							*	
	看護研究 I	2								*	
	看護研究 II		3●							*	
	総合看護		3●							*	
	看護政策論	2								*	
看護ゼミナール		1							*		
計		64	17								
専 門 科 目	助産に 関する	助産学 I		1						*	*
		助産学 II		4						*	*
		助産学 III		2						*	*
		助産学 IV		2						*	*
		助産学 V		6						*	*
		計		15							

●……選択必修

会的環境について、それらをとらえる方法を含めて学ぶ。この中には、自然環境としての空気、水、大気、微生物などが含まれる。また、これらの環境要因がもたらす健康上の問題として疾病と、外界からの作用である治療法についても学習する。同時に、人間の健康に対して我々の社会がどういう組織と法律をもって対応しているのか、その現状を学び、さらにどう対応していったらよいかを展望する視点を養う。

(3) 専門科目 (表 6)

専門科目は、看護学における援助法を、初学者にわかりやすいように組み立てて展開する。専門科目は6つの科目群から成る。初めに看護の基礎的な諸概念を学ぶ科目群をおき、健康状態別の看護援助の3群を設け、看護学の学習に最も効果的である実習科目群をおき、最後には、看護学を発展させる視点や方法に関する科目群をおいた。これらの科目群は学習の順序性も表すが、選択科目についてはその限りではない。

「看護の基礎」では、看護に関わる生活と健康を身近なところから学び始め、看護という職業の歴史と看護学の発展状況を学びながら、看護について洞察する視点を養う。また現在看護が有する援助方法論として、対人関係論、健康状態のアセスメント法、看護の展開法、具体的な生活行動の援助法を学ぶ。さらに看護が社会にどのような形で提供されているのか、そのシステムについて学習する。この段階から、生活や看護の現場での体験学習を取り入れていく。

「人間と環境の相互作用の保持・強化」では、人間と環境との相互作用はうまくいっており、健康状態が引き下げられているわけではない対象に対して、より健康状態を高めたり、疾病を予防をする働きかけを学ぶ。成長発達に伴う援助、健康障害因子の予防等、健康の保持・増進に主眼をおいた看護援助方法について学習する。ここでは従来の小児保健、母性保健、成人保健、老人保健および健康管理、健康教育が含まれ、地域看護学はこの群に入っている。また、従来の母性看護学における妊娠・出産・産褥を家族発達としてとらえ、ここに配置した。生涯発達看護論においては、保健活動の現場に出て、体験学習を重ねる予定である。

「人間と環境の相互作用の修正」では、人間と環境の相互作用の結果、疾病によって最適健康状態が損なわれている対象に、新たな最適健康状態の獲得をめざして援助する看護について学ぶ。具体的には、慢性的病気と共に生きていく状況での看護援助であり、相互作用をどのように修正するのか、どうすれば修正できるのかを学習する。対象者自身の様々な生活行動の変更が必要であったり、人間関係を含め、対象者の環境を変化させることが必要である場合、対象者が新たな相互作用の仕方を考え、実行する力を付けていく過程

と、看護者の役割を学習する。

「人間と環境の相互作用の回復・保護」では、急性期における看護や、ターミナルケアについて学ぶ。対象となる人間が環境に作用する力が弱まっていて、環境からの影響を受けやすい、または環境によって支えられている状況である。急性期看護論では環境を整え、本人が環境と相互作用できる力を回復するのを援助する方法を学習する。ターミナルケア論では、生命をまっとうするまで、どのように周囲が支えていけるのか、人間存在の根源を問いつつ、看護の役割を学習する。

以上の3つの科目群は、従来の小児看護学、成人看護学、母性看護学、精神看護学、公衆衛生看護学という科目の組み方とは大きく異なり、健康状態別に看護援助を考えていこうとするものである。この部分は特に新しい試みであり、複数の教員が内容と教育方法の検討を重ねながら、一つ一つの科目を、創っている段階である。

「臨地実習」は、様々な発達段階と健康状態にある個人また集団へ、看護の働きかけを実際に行い、対象者が最適健康状態に至るプロセスを共にする、体験学習である。3年生後期および4年生前期の一部を使って、集中的に行う計画である。対象者の発達レベルや環境、健康状態をアセスメントでき、看護援助をいかに行えるか、それまでの学習内容をつなげ密度の高い学習を期待している。実習場は、成長発達段階別の施設・病棟であったり、健康状態別の施設・病棟であったり、訪問看護では、成長発達段階、健康状態を問わずというのが、現状である。そこで2単位ずつ小児に焦点をあてる実習、家族発達、特に子の誕生に焦点をあてる実習、急性期に焦点をあてる実習、慢性期に焦点をあてる実習、精神科領域、これは実習場の選択の問題もあり、独立させた実習、老人に焦点をあてる実習、3単位の保健所実習を組む予定である。健康状態別の看護の実習と、各成長発達段階の対象者に出会うという2つの条件を満たしたいと考えている。総合実習は選択必修とし、学生の興味のある分野で、それまでの学習を深められるような実習を行う。

「看護学統合」は学生各自の看護観を深め、プロフェッショナルなナースとして、生涯学んでいく方向性を見つけていってほしいと考えて、組んだ科目群である。大学卒業により、看護婦・保健婦・助産婦の国家試験受験資格を取得できるが、免許を取得するかどうかは、学生の自由意志である。看護学の分野で仕事をしていくかどうかは、学生が在学中に、看護に対するアイデンティティをどれだけ持ち得るにかかっているだろう。これは4年間の学習のすべてを通して培われるものであるが、学んできた看護を改めて考え、看護学や職業としての看護の現状と課題を考える時間

として、また課題を追求する方法論を学ぶ機会となる科目群である。4年次に、ゼミナールや選択科目を履修し、総合実習や看護研究IIあるいは総合看護につなげていけると、深い学びができるのではないかと期待している。なお看護研究IIと総合看護は、いずれかを履修することが必修になっている。

VI. おわりに

本カリキュラムは、開始して半期が経過したところであり、4年間をかけなければ全体像は見えてこないが、進行と同時に、カリキュラム評価を行いながら進めていかなければならないと考えている。科目を担当した教員自身による評価や、学生からの評価を含め、全学的に継続した評価を行う必要があろう。

教員は、2～4年生には改訂前のカリキュラムの科目を開講し、同時に新しい科目に取り組むという状況である。新しい科目の内容は、従来の領域を越えており、複数の教員相互の意見交換を行いながら、組み立てられている。これは教員にとって、非常に魅力的であり、新しい発見を含んでいる。互いに刺激し合い、助け合いながら、この新しい試みを成功させたいと考えている。

本学でカリキュラム改正の試みが始まって20年になり、その間多くの教員が検討に参加してきた。特に1994年度は、総ての教員が改定案の検討に取り組み、完成を見ることができたことに対し、委員一同深く感謝していることを、最後に記して報告を終わりとする。

<引用文献>

- 1) 聖路加看護大学カリキュラム検討会：大学における看護教育カリキュラム第1部聖路加看護大学カリキュラム試案の基礎, 日本看護科学会誌, 10(2), 49-57, 1990.
- 2) 聖路加看護大学カリキュラム検討会：大学における看護教育カリキュラム第2部聖路加看護大学カリキュラム試案の紹介, 日本看護科学会誌, 10(2), 58-67, 1990.
- 3) 菱沼典子, 小島操子：さらに魅力あるカリキュラムの開発に向けて「聖路加看護大学」の教育理念と目標, *Quality Nursing*, 1(2), 38-44, 1995.

<参考文献>

- 1) 樋口康子他：高等教育における看護教育カリキュラムとその開発に関する研究, 平成2-4年度科学研究補助金研究成果報告書, 1993.
- 2) 大学基準協会：21世紀の看護学教育－基準の設定に向けて－, 大学基準協会資料第41号, 1994.4.
- 3) 文部省高等教育局医学教育課：大学・短期大学に適用される保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の在り方について, 1995.6.21.
- 4) Torres, G., Stanton, M., 近藤潤子, 小山真理子訳：看護教育カリキュラムその作成過程, 医学書院, 1988.